

令和 7 年度

厚沢部町教育委員会外部評価委員会

点 検 ・ 評 価 報 告

(令和 6 年度対象)

令和 7 年 11 月

厚沢部町教育委員会

1 点検・評価の目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このことから厚沢部町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たすため、教育委員会の事務・事業について点検・評価を行おうとするものです。

2 外部評価

点検・評価について客観性を確保するため、教育委員会では町内の有識者5名で構成される「厚沢部町教育委員会外部評価委員会」を設置し、委員の皆様から広く意見を聴取しようとするものです。

【厚沢部町外部評価委員会委員名簿】

職 名	氏 名
委 員 長	笹 谷 勝 博
副 委 員 長	倉 谷 弘
委 員	藤 岡 智 恵
委 員	森 本 秀 樹
委 員	細 畑 留美子

3 点検・評価の項目

点検・評価の具体的な項目や指標について、国の基準はなく、各教育委員会が実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

本町では「第8次厚沢部町教育推進中期計画」の事業区分を基本に、令和5年度の主な事務・事業について、点検・評価を行おうとするものです。

今回の点検・評価の結果を次年度以降の事務の改善等に活用し、教育施策の推進に努めてまいりますので、宜しくお願いします。

厚沢部町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、厚沢部町教育委員会外部評価委員会の設置、組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置及び目的)

第2条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条第1項及び第2項に基づく厚沢部町教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価(以下「評価」という。)に関し、効率的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たし、その客観性の確保を図るための意見を求めるため、厚沢部町教育委員会外部評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が行った評価等の結果について、専門的視点から意見を述べること。
- (2) 教育委員会が行う評価等の手法並びに事務・事業の改善又は充実策について意見を述べること。
- (3) 前2号に掲げる事項について取りまとめた結果を教育委員会に報告すること。

(組織)

第4条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し会議の議長となる。ただし、最初に行われる会議は、教育委員会教育長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させてその説明又は意見を聞くことができる。
- 5 委員会の会議は、公開できるものとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この訓令は、平成22年4月1日から施行する。

(1)教育内容の充実、特色ある教育の推進、学校施設、設備の整備充実

主管係	学校教育係	記入者		太 田 聡 子
事務事業名	学力向上対策に係る支援事業	中期計画上の位置づけ		教育内容の充実
1 0 款 1 項 2 目	事務局費	事業費	R 4 実績	3, 0 3 8 千円
			R 5 実績	3, 9 0 0 千円
			R 6 実績	8, 3 8 7 千円
1 0 款 2 項 2 目	教育振興費（小学校）	事業費	R 4 実績	2, 2 3 5 千円
			R 5 実績	2, 2 3 3 千円
			R 6 実績	2, 0 0 5 千円
1 0 款 3 項 2 目	教育振興費（中学校）	事業費	R 4 実績	9 0 9 千円
			R 5 実績	7 8 8 千円
			R 6 実績	8 0 8 千円
事業の目的 （求める成果）	・児童生徒の学習権を保障するため、町立小中学校に対して教育課程の編成や学力向上対策についての指導、助言、備品購入等を行う。			
事業対象と手段 （誰に何を）	○指導方法工夫改善加配：1名配置（算数少人数授業担当・道費・厚沢部小学校） ○小学校体育エキスパート教員加配：1名配置（道費・厚沢部小学校・全小学校巡回） ○学校力向上に関する総合実践事業加配：2名配置（道費・厚沢部小学校・理科専科全小学校巡回、事務） ○総合的な学習推進協議会補助金交付 ○GIGAスクール1人1台端末を有効活用し、個別最適な学びの保障、教職員の働き方改革に寄与するためAIドリル（Qubena）の導入、GIGAスクールで導入したタブレット端末の運用経費 ○ICT機器活用のための推進委員会（教職員で構成、年に複数回講師を招き研修会を実施） ○GIGAスクール運営支援センター整備事業：ICT支援員1名配置			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	習熟度別による指導の充実が図られている。ICT機器の導入活用により、個別最適な学びの充実につながっている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	習熟度別による指導の充実により実践的でわかりやすい授業づくりの向上を図ることができた。また、ICT支援員の配置によりさらなるICT機器の活用や教員の働き方改革の充実が図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	学力向上対策用の備品整備は今後も計画的に行っていく必要があるため、予算の削減はしない。
総合評価	A	個別最適な指導を可能にするため、習熟度別指導及びチーム・ティーチングを推進し、子どものつまづきに対応できる支援体制の強化を図る。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(2)健康・安全

主管係	学校教育係	記入者	太 田 聡 子
事務事業名	学校保健の充実事業 (児童生徒健康診断事業) (町学校保健会助成事業) (教職員健康診断事業)	中期計画上の位置づけ	健康・安全教育の充実
10款1項2目	事務局費	事業費	R4実績 2,370千円 R5実績 2,204千円 R6実績 2,033千円
事業の目的 (求める成果)	・心身ともに健康な児童生徒の育成を図る ・教職員の健康保持 ・町学校保健会の推進・充実を図る		
事業対象と手段 (誰に何を)	○全児童生徒の健康診断実施 (内科検診、歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、尿検査) ○心臓検診の実施 (小学校1学年及び中学校1学年対象) ○就学前児童の就学時健康診断の実施 ○教職員の健康診断 (血液検査・心電図検査・胸部X線検査・尿検査：全職員、40歳以上：胃検査 35歳及び40歳以上：聴力検査、面接指導：面接指導を必要とする職員) ○町学校保健会補助金交付		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	学校保健安全法等の定めに基づき実施している。
成果 (意図した成果があがったか)	A	町学校保健会へ補助金を交付し年1回研修会を開催し、理解を深めている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	児童生徒検診及び教職員検診は、学校保健安全法に定められている項目について医療機関と委託契約し行っているため予算の削減はできない。
総合評価	A	検診事業については、教委・学校・医療機関との連携により計画的に実施できており、教職員や児童生徒の安心安全な健康管理が図られている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(3) その他(就学支援)

主管係	学校教育係	記入者		太田 聡子
事務事業名	児童生徒への就学援助の充実事業	中期計画上の位置づけ		教育費等の支援
10款2項2目	教育振興費（小学校）	事業費	R4実績	770千円
			R5実績	518千円
			R6実績	426千円
10款3項2目	教育振興費（中学校）	事業費	R4実績	2,073千円
			R5実績	2,056千円
			R6実績	2,300千円
事業の目的 (求める成果)	・経済的に困窮な理由を有する児童生徒の適切な就学を支援する			
事業対象と手段 (誰に何を)	・要保護、準要保護児童生徒への就学支援			
	《対象項目》			
	入学準備金（小1名、中7名）		保護者会費（小14名、中21名）	
	学用品費（小17名、中25名）		クラブ活動費（中20名）	
	校外活動費（小2名、中5名）		生徒会費（中23名）	
	修学旅行費（小4名、中7名）			
学校給食費 無償化実施				

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	準要保護の選考基準は、生活保護世帯基準の1.2倍までとしており、経済的に困窮している家庭に支援をすることで児童生徒が安心して就学することができる。
成果 (意図した成果があがったか)	A	援助することにより安心して就学することができている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	毎年対象者を選定するため、削減は難しい。
総合評価	A	援助することにより安心して就学することができていることから今後も継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(3) その他(奨学資金)

主管係	学校教育係	記入者	太 田 聡 子
事務事業名	貸与型奨学金事業	中期計画上の位置づけ	教育費等の支援
10款4項1目	奨学金	事業費	R4実績 2,136千円
			R5実績 696千円
			R6実績 960千円
事業の目的 (求める成果)	・大学、専修学校及び高等学校に在学する優秀な生徒で、学資の支弁が困難な者に対し 学資金を貸し付けし有用な人材を育成する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	・厚沢部町奨学資金貸付条例による奨学資金の貸与(令和6年度金額変更) 高等学校 月額 30,000円 : 0名(新規0名、継続0名) 短大、専修学校 月額 40,000円 : 0名(新規0名、継続0名) 大学 月額 50,000円 : 2名(新規1名、継続1名※継続者は従来金額)		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	有用な人材育成及び子育て支援の観点から、継続実施が必要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	学資の支弁が困難な優秀な生徒に対し、奨学資金を貸与することで有用な人材育成が期待できる。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	貸付金額の月額是他奨学資金制度や社会情勢等を考慮し、削減することは難しい。
総合評価	A	奨学資金を貸与することによって経済的支援が図られており、今後も現状のまま継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(3) その他(奨学資金)

主管係	学校教育係	記入者		太 田 聡 子
事務事業名	給付型奨学金事業	中期計画上の位置づけ		教育費等の支援
1 0 款 4 項 2 目	奨学金	事業費	R 4 実績	— 千円
			R 5 実績	— 千円
			R 6 実績	1 , 4 4 0 千円
事業の目的 (求める成果)	・ 大学、専修学校(高等学校以上の高等教育機関)に在学する優秀な生徒で、経済的理由により就学困難な者に対し、奨学金を給付し有用な人材を育成する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	・ 厚沢部町奨学資金給付条例による奨学資金の給付(令和 6 年度新設)			
	・ 大学	月 額	30,000円	: 4 名(単年度申請決定)

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	有用な人材育成及び子育て支援の観点から、継続実施が必要である。単年度申請決定することで妥当性は保たれている。
成果 (意図した成果があがったか)	B	経済的理由により修学困難な優秀な生徒に対し、奨学資金を給付することで有用な人材育成が期待できるが、申請要件の見直しや整理が必要である。(令和7年度改正済み)
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	給付金額の月額是他奨学資金制度や社会情勢等を考慮し、妥当であると判断する。
総合評価	B	奨学資金を給付することによって経済的支援が図られており需要や効果は感じられるが、新規事業でもあるので、今後も適宜制度の見直し等をしながら継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)教育内容の充実

主管係	学校教育係	記入者		太 田 聡 子
事務事業名	国際理解教育の推進事業 (外国語青年招致事業)	中期計画上の位置づけ		外国語コミュニケーション能力の育成
1 0 款 1 項 2 目	事務局費	事業費	R 4 実績	4 , 9 8 8 千円
			R 5 実績	5 , 0 2 7 千円
			R 6 実績	4 , 4 5 3 千円
事業の目的 (求める成果)	・ 中学校における英語教育の充実 ・ 小学校における外国語活動の充実及び学校教育における国際理解の充実 ・ 異文化に触れる機会を拡大し、国際社会に対応できる子どもの育成			
事業対象と手段 (誰に何を)	①各小・中学校の訪問による学校教育における英語指導助手の活用（認定こども園含む） 《英語指導助手派遣状況》 厚沢部中学校：6 8 回 厚沢部小学校：2 9 回 鶉小学校：6 2 回 館小学校：6 3 回 (厚沢部小学校は1 日、鶉・館小学校は半日) 認定こども園：9 回			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	英語指導助手を学校教育現場で活用することで、外国語活動の推進が図られている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	おおむね計画通りに授業を行うことができている。自己体験を交えながら授業を行っているため児童生徒が楽しんでいるとの意見をいただいている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	英語指導助手の報酬額については、JETプログラム（国が自治体国際化協会と協力して実施）で決められていることからコスト削減は難しい。より学年にあった授業内容となるよう各学校と調整を図っていく。
総合評価	A	ゲーム等で英語に親しみ異文化に触れることで、国際社会に対応できる子どもの育成に努めている。 今後も学習指導要領を基に、学校訪問前に授業内容の打合せを十分行い、児童生徒が英語を通じて国際感覚を養えるよう工夫していく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

（4）教育内容の充実

主管係	学校教育係	記入者	山 田 蒼 良
事務事業名	社会科副読本改訂事業	中期計画上の位置づけ	教育課程・学習指導
10款1項2目	事務局費	R4実績	—
		R5実績	—
		R6実績	—
事業の目的 （求める成果）	・本町の社会科副読本は昭和54年度に出版し、平成元年度に改訂、平成10年度に改訂2版、平成23年度に改訂3版を出版しているが、前回改訂から約10年経過し、町も大きく変遷している。町内小学校では「ふるさとに心の向く教育」の実践推進に欠くことの出来ない「書」として活用されていることから改訂4版を出版した。		
事業対象と手段 （誰に何を）	・厚沢部町改訂4版・社会科副読本編集委員会を設置 ・厚沢部町改訂4版 「わたしたちの町 あっさぶ」を出版		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	指導要領では身近な地域（産業・生活・地理的環境・災害防止と安全・交通・公共施設など）について3・4年生で学ぶことになっている。しかし、教科書には遠くの地域の例が上げられ、児童の身近な地域を学ぶことができない。厚沢部町として町内各校の児童が共通に学ぶ副読本が必要である。
成果 （意図した成果があがったか）	A	改訂4版でもワークシートを中心に教室で使われやすい形式を追求してきた。編集委員の努力により、児童たちが「身近な地域」を調べ、工夫してワークシートを埋めていくことが可能になった。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	副読本を指導要領対応期間の10年分作成するなどしてコスト削減を図った。
総合評価	A	令和2年度に改訂3版を基に編集をし改訂4版を発行した。編集委員の現場からの声や近隣の町の発行形態などを参考に審議の上、編集した。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)教育内容の充実

主管係	学校教育係	記入者	太 田 聡 子	
事務事業名	教職員の資質向上及び学校経営の円滑な推進事業 (町教育研究会助成事業) (定例校長会・教頭会) (教職員各種事業連絡旅費) (各校コミュニティスクール運営事業) (校務支援システムの運用)	中期計画上の位置づけ	学校における働き方改革 教職員の資質能力の向上 地域との連携強化	
10款1項2目	事務局費	事業費	R4実績	830千円
			R5実績	990千円
			R6実績	709千円
10款2項1目	小学校管理費 (校務支援システム運用分)	事業費	R4実績	423千円
			R5実績	423千円
			R6実績	423千円
10款3項1目	中学校管理費 (校務支援システム運用分)	事業費	R4実績	423千円
			R5実績	423千円
			R6実績	423千円
事業の目的 (求める成果)	・具体的な実践・指導を活性化するための組織的な実践の展開と校内研修の充実 ・ふるさとの誇りや確かな成長を刻み、信頼獲得に努める学校経営の充実			
事業対象と手段 (誰に何を)	○毎月定例校長会及び教頭会を開催し、学校経営について指導、助言を行っている ○指導主事による学校訪問実施 ○教職員の各種会議・研修の参加に必要な旅費を補助する ○コミュニティスクールの開催への補助を通じて保護者や地域の意見を学校経営へ反映させる ○町教育研究会補助金交付 ○校務支援システムの導入-厚沢部小学校及び厚沢部中学校（中学校は令和元年度より導入）			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	定例校長会議をはじめとする各種会議及び学校訪問により、学校経営方針の確認や実態把握に努めている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	コミュニティスクールの開催への補助を通じて保護者や地域の意見を学校経営へ活用することができた。 町教育研究会において、管内での各種研究会及び交流会へ参加することにより教育活動の実践交流が図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	町教育研究会への補助は教職員の資質向上には欠かせないため、削減は難しい。
総合評価	A	各校の円滑な学校経営に向け、定例校長会・教頭会及び指導主事による学校訪問での指導・助言が機能している。 校務支援システムの導入により教職員の働き方改革にも寄与できている。 校内研修や各種研修参加等において教職員の研修に対する姿勢は概ね良好である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)教育内容の充実

主管係	学校教育係	記入者	太田 聡子
事務事業名	特別支援教育の推進事業 (特別支援教育支援員配置事業) (厚沢部町教育支援委員会) (特別支援教育連絡協議会)	中期計画上の位置づけ	特別支援教育の充実
10款1項2目	事務局費	事業費	R4実績 323千円 R5実績 401千円 R6実績 1,831千円
事業の目的 (求める成果)	○困難を抱える子どもや障害の状況に応じた特別支援教育の充実 ○特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導力の向上 ○関係機関との連携・協力による特別支援教育の充実と改善		
事業対象と手段 (誰に何を)	○特別支援教育支援員を厚沢部小学校5名、鶴小学校1名、館小学校1名、厚沢部中学校1名(パート2名)配置 ○就学前児童において、知能検査を実施し、保護者及び入学校と教育委員会で協議 ○町特別支援教育研究会補助金交付 ○特別支援教育コーディネーターの指名(各学校) ○特別支援教育連絡協議会委員の委嘱と協議会の開催		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	就学前児童の知能検査を実施することで、支援が必要な児童を把握し、学校及び保護者との連携が図られている。 また、学年が上がり支援が必要になっていく児童生徒を把握するとともに、配置要望校へは支援員を配置することで児童の教育環境が整備されている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	特別支援教育連絡協議会及び関係者による打ち合わせにより、実態把握が図られた。支援員の配置により、学習サポート体制が維持できた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	近年、特別な支援を必要とする児童生徒が増加していることにより、今後は支援員の増員が予想されるため、コスト削減は難しい。
総合評価	A	要望があった学校へ支援員の配置を行い、児童が安心して学べる環境が維持されている。 また、専門的分野から指導助言を受ける機会を各学校に提供するため、今後も特別支援教育連絡協議会の開催を継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)教育内容の充実

主管係	学校教育係	記入者		太田聡子
事務事業名	へき地・複式教育の推進事業 (へき地複式教育研究連盟助成事業)	中期計画上の位置づけ		へき地・複式教育の充実
10款1項2目	事務局費	事業費	R4実績	43千円
			R5実績	49千円
			R6実績	64千円
事業の目的 (求める成果)	・地域や少人数指導の特性を生かしたへき地・複式教育の充実 ・町内小学校合同の見学学習・球技などの集合学習や交流学习を通して体験を深める ・児童の経験や視野を広げ、社会性を育てる			
事業対象と手段 (誰に何を)	・対象校 鵜小学校、館小学校 ①へき地複式教育研究連盟補助金交付 ・教職員研修旅費、交流学习等事前会議及び打合せ旅費			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	交流学习などで他校の児童と集団で活動を行うことは重要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	他校との交流により、社会性を高める効果があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	宿泊研修や社会科見学等については、小学校で合同で実施する方が旅費等のコスト削減になる。一部はリモート化されている。
総合評価	A	集合学習を通して集団での活動体験や他校との交流学习によって社会性を高める効果があり、今後も継続実施していく必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(5) 学校の施設・設備の整備充実

主管係	学校教育係	記入者		山 田 蒼 良
事務事業名	学校教育環境整備事業	中期計画上の位置づけ		学校教育環境の整備充実
1 0 款 2 項 1 目	学校管理費(小学校)	事業費	R 4 実績	1 1 , 3 9 5 千円
			R 5 実績	5 , 7 8 5 千円
			R 6 実績	2 , 4 7 1 千円
1 0 款 3 項 1 目	学校管理費(中学校)	事業費	R 4 実績	1 , 2 2 6 千円
			R 5 実績	1 , 5 6 0 千円
			R 6 実績	8 5 2 千円
事業の目的 (求める成果)	・老朽化の状況に応じて計画的に改築・改修を進め、快適・安全な学校環境を整備する			
事業対象と手段 (誰に何を)	①前年度に学校へ修繕の要望取りまとめを行い、次年度に計画的に実施する			
	②学校施設の根幹に関することについては、必要に応じて事務局より改築・改修計画を実施する			
	③突発的に発生した故障についてもできるだけ対応する			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	老朽施設が多いことから計画的に改築・改修を進める必要があるが、義務教育学校の建設予定があることから、必要最小限の修繕等になるよう管理している。
成果 (意図した成果があがったか)	A	改修（故障前の状況に復旧）については、ほぼ達成されている。 また、突発的に発生した故障についても対応できている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	老朽化が進んでいるため、修繕費の削減は難しいが、改修内容をより検討工夫し、効率的かつ迅速に（改築・改修等）を継続対応する必要がある。
総合評価	A	事業費を把握するために、前年度の要望取りまとめは継続して実施する。また、安全な学校生活を確保できるよう老朽施設の改修等について必要性を考慮しながら迅速かつ計画的に行っている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(5) 学校の施設・設備の整備充実(学校への冷房設備設置)

主管係	学校教育係	記入者		山 田 蒼 良
事務事業名	学校教育環境整備事業	中期計画上の位置づけ		学校教育環境の整備充実
1 0 款 2 項 1 目	学校管理費(小学校)	事業費	R 4 実績	— 千円
			R 5 実績	1 1 , 9 6 5 千円
			R 6 実績	6 9 , 9 3 0 千円
1 0 款 3 項 1 目	学校管理費(中学校)	事業費	R 4 実績	— 千円
			R 5 実績	1 , 7 6 0 千円
			R 6 実績	2 5 , 2 8 9 千円
事業の目的 (求める成果)	・ 各小中学校へ夏季の安全衛生を維持するために冷房設備(エアコン) を設置する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	<div>・ 令和 5 年度事業費実績は実施設計分。(工事費予算は令和 6 年度へ繰越)</div> <div>・ 令和 6 年 6 月末設置工事完了。</div> <div>・ エアコン設置場所</div> <div>厚沢部小学校：普通教室、特別支援教室、多目的室、学童保育室、算数教室、職員室、校長室、用務室</div> <div>鵜小中学校：普通教室、特別支援教室、食堂、職員室、校長室、公務補室</div> <div>館小中学校：普通教室、特別支援教室、ランチルーム、学童教室、職員室、校長室、用務室</div> <div>厚沢部中学校：普通教室、特別支援教室、音楽室、ミーティングルーム、相談室、職員室、校長室</div> <div>公務補室</div>			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	近年の猛暑の影響から児童生徒や教職員の夏季の学校生活や安全衛生を維持するために必要なものであった。
成果 (意図した成果があがったか)	A	熱中症リスク等の低下により、学校活動が円滑に実施できている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	普通教室を中心に設置しており、効率的な設置となるようにした。また、今後のランニングコスト等を考慮し、運用のルールを徹底することで、持続可能性も確保している。
総合評価	A	令和5年度からの繰り越し事業での実施。児童生徒の教育の質の向上と学校生活の安全性の確保につながっている。運用についても問題なく適切に使用できている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

自己点検と評価解釈

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅の見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	少年の主張厚沢部町予選大会開催事業	中期計画上の位置づけ	多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	<div>R 4 実績</div> <div>R 5 実績</div> <div>R 6 実績</div>
事業の目的 (求める成果)	未来に向けての夢、社会に対する希望などを発信させることにより青少年の健全育成及び 非行防止に対する理解をより深める。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>1 厚沢部町予選大会 期日：令和6年6月3日（月） 会場：町民交流センター 参加数：6名 内容：中学校代表者による主張発表大会（上位2名を檜山地区大会出場者とする。） 結果：最優秀賞 中川心花（3年） 優 秀 賞 三上響太（2年） 審査委員特別賞 二宮悠（2年）</p> <p>2 檜山地区大会 期日：令和6年6月28日（金） 場所：せたな町民ふれあいプラザ 参加者：厚沢部町予選大会最優秀賞、優秀賞受賞者（中川心花・三上響太） 結果：最優秀賞：糸畑雫（江差北中・3年） 優 秀 賞：廣川桃花（奥尻中・2年） 優 秀 賞：高橋利穂（奥尻中・3年） 備考：檜山振興局主催事業</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	北海道が主催する檜山地区大会、北海道大会につながる大会であり、北海道と連携を図る上で教育委員会が実施することが妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	社会や将来に向けての問題意識の芽生えや論理的に物事を考え、表現力を高める上で、中学生の健全育成に寄与することができた。一方で審査委員の意見を中学校に伝える仕組みが無いため、指導教諭は次年度の指導内容に今回の審査結果を活かすことが難しい。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	必要最低限の経費で運営しており、効率性は高い。
総合評価	B	審査結果表等の様式や、審査委員の意見をフィードバックする仕組みを整理した上で、今後も継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）				
主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	あっさぶ少年少女体験塾開催事業 （土曜日の教育支援体制等構築事業）	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 4 実績	1 2 8 千円
			R 5 実績	1 2 2 千円
			R 6 実績	1 1 5 千円
事業の目的 （求める成果）	事業内容を自然・芸術文化等で、異世代交流・親子の触れあい・人間性豊かな少年少女の育成を図ることをねらいとする。 また、土曜日の教育環境を豊かなものにするため、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。			
事業対象と手段 （誰に何を）	1 親子体験フェスタ in あっさぶ川 期日：令和6年7月28日（日） 場所：厚沢部町町民交流センター 対象：幼児及び小中学生とその家族 参加数：児童13名・保護者12名 備考：雨天のため室内事業に変更した。 （仕掛けの作り体験、キャスティング（ルアー投げ）大会） 2 こども芸術家養成講座「陶芸教室」 期間：令和6年6月15日～10月5日〔月1回土曜日：計4回〕 場所：旧赤沼寿の家 対象：小学生4～6年生 講師：厚沢部町陶芸愛好会会員 参加数：10名 備考：当初5回の開催を予定していたが、講師事情により全4回に変更した。 3 茶道体験子ども教室 期間：令和6年4月～令和7年3月〔年間26回〕 場所：町民交流センター 対象：小学生～中学生 講師：厚沢部町茶道宗偏流厚沢部ひまわり会			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	町内団体に講師を委託することで、自然や芸術文化活動を軸に異世代交流が達成されており、手段として妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	厚沢部町の自然を生かした事業や文化団体の特性を生かした文化活動を実施し、教育支援体制を充実させることができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	土曜日の教育支援体制等構築事業として北海道の補助金を活用しており、費用面の効率性は高い。
総合評価	A	現状のまま継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町二十歳を祝う会開催事業	中期計画上の位置づけ	地域ぐるみによる健全育成の推進と関係機関との連携
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R4実績 282千円
			R5実績 198千円
			R6実績 218千円
事業の目的 (求める成果)	我が郷土を誇れるよう故郷厚沢部町を感じる機会を提供するとともに、二十歳としての自覚を持たせ未来への決意を新たにさせる。		
事業対象と手段 (誰に何を)	期日：令和7年1月5日（日） 場所：町民交流センター 対象：平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ（20歳以上） 対象者：34名 参加者：25名（男性15名、女性10名） 内容：記念式典（二十歳代表宣誓・記念品贈呈）記念撮影		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	多数の自治体において行政が主催する式典として認知され実施されている。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	式典の開催により二十歳の門出を祝う事業目的を達成することができた。二十歳からのメッセージについては映像が正常に再生されず式の進行に支障があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	B	当日プログラムの材料費、記念品を中心とした支出でありコスト削減の余地は無い。二十歳からのメッセージについては実施方法を整理し不具合が発生しないよう、効率的に実施する必要がある。
総合評価	B	二十歳の門出を祝う事業として業務の効率化を図りながら今後も継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	青少年問題協議会活動事業	中期計画上の位置づけ		地域ぐるみによる健全育成の推進と関係機関との連携
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 4 実績	3 9 千円
			R 5 実績	3 2 千円
			R 6 実績	4 0 千円
事業の目的 (求める成果)	青少年の健全育成に向けた町内各関係機関の情報交流や協議			
事業対象と手段 (誰に何を)	青少年問題協議会の開催 期日：令和7年3月11日（火） 場所：厚沢部町図書館視聴覚室 対象：出席委員11名 内容：道南及び町内の青少年の状況についての情報交換等			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	地方青少年問題協議会法及び厚沢部町青少年問題協議会条例に基づき開催される当協議会は行政が実施するべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	副町長、教育長、学校長、町議会議員等が委員として出席し、当町における青少年の現状と課題を共有することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	青少年問題の解決を図るうえで行政の責任者が情報を共有することは効率性は高い。
総合評価	A	現状のまま継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	木育イベント開催事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 4 実績	0 千円
			R 5 実績	2 7 千円
			R 6 実績	1 2 千円
事業の目的 (求める成果)	厚沢部町の豊かな自然に触れ、自然を愛する心を育む。			
事業対象と手段 (誰に何を)	木育イベント 期日：令和6年11月9日（土） 参加者：18名 内容：檜山振興局と協働しレクの森を活用した木育イベントを実施 （1）松ぼっくり探し （2）スウェーデントーチ体験 （3）振興局による樹木の働き等の解説			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	B	参加者がレクの森の自然環境を知る機会として、教育委員会が檜山振興局と協働して実施することは妥当である。住民と協働による取り組みが必要である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	参加者はイベントを通して、レクの森の自然について理解を深めることができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	檜山振興局から人員の派遣や道具の貸与を得て実施しており、人員、費用面共に効率的に実施できている。
総合評価	B	地域住民を含めた関係機関との協働の事業実施をめざす。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(2)生涯学習の推進

主管係	社会教育係	記入者		石 井 淳 平
事務事業名	地域学校協働本部事業	中期計画上の位置づけ		地域学校協働活動の推進 と学びを支える人材の 活用
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 4 実績	0 千円
			R 5 実績	0 千円
			R 6 実績	0 千円
事業の目的 (求める成果)	地域住民の特技や趣味、伝統技能を把握し、社会教育事業や学校教育活動での活用を通して、生涯学習活動の機会創出、地域の教育力向上、学校教育活動の充実の推進を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	地域学校協働本部事業 期間：通年 内容：地域学校協働本部を設置する。地域学校協働本部では「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校が相互のパートナーとして連携・協働し様々な活動を行うための調整を行う。 コミュニティースクール（ＣＳ）で提案された活動や学校が希望する活動を、これまでの学校支援ボランティアや地域団体などの協力により実施する。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	学校教育活動の支援のため、地域ボランティアを学校と繋ぐ役割として行政が実施すべき。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	河川資源保護振興会や鹿子舞保存会など地域団体による学習支援がみられたが、本部が有効に機能しているとはいえず、体制作りが必要である。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	最低限の費用で実施しているためコスト削減の余地はない。
総合評価	B	学校運営協議会（CS）の意見と支援活動の担い手をつなぐ本部体制が機能していない。活動の担い手の掘り起こしや地域課題がCSで話し合える体制づくりが必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町幸齢者学級開設事業	中期計画上の位置づけ		地域課題や住民ニーズに即した講座の開催
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 4 実績	5 1 千円
			R 5 実績	7 1 千円
			R 6 実績	1 0 8 千円
事業の目的 (求める成果)	生きがいのある生活を築くために必要な教養・技術を習得するとともに、仲間づくりの輪を広げ、心豊かな生活を確立する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	学習会開催〔計2回開催〕 【第1回】期日：令和6年7月5日(金) 場所：町民交流センター 参加数：36人 内容：北海道警察音楽隊コンサート 【第2回】期日：令和7年1月11日(土) 場所：町民交流センター 参加数：24人 説明：第2回文化講演会への参加 演題：「前進の心得」 講師：元北海道日本ハムファイターズ所属選手 杉谷 拳士氏 その他：全4回を予定していたが、全2回にとどまった。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	高齢者を対象とした生涯学習事業であり、教育委員会主催の別事業との連携も行うことから教育委員会が実施することが妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	高齢者の社会学習のため講演会や講座を提供することができたが、開催回数が2回にとどまった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	文化講演会等と連携することで内容の充実、人員や費用の削減ができており、効率性は高い。
総合評価	B	実施年度の高齢者の参加しやすさを考慮しながら、予定通りの開催を行う必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	石 井 淳 平
事務事業名	厚沢部町社会教育委員活動事業	中期計画上の位置づけ	生涯学習推進体制の充実
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R4実績 106千円
			R5実績 241千円
			R6実績 184千円
事業の目的 (求める成果)	社会教育推進に関する諸計画の立案及び調査研究、委員としての活動と生涯学習の効果的推進に関する諸問題について審議する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>1 社会教育委員の会議の開催</p> <p>【第1回】令和6年5月28日（火） 場所：図書館視聴覚室</p> <p>【第2回】令和6年12月5日（木） 場所：図書館視聴覚室</p> <p>2 各種会議・研修会への派遣</p> <p>(1) 北海道市町村社会教育委員長等研修会 期日：令和6年7月11（木）～12日（金） 場所：札幌市</p> <p>(2) 北海道社会教育研究大会及び全国社会教育研究大会 期日：令和6年10月24（木）～25日（金） 場所：網走市</p> <p>(3) 管内社会教育委員連絡協議会総会 【事務局：上ノ国町】 期日：令和6年5月28日（火） 場所：せたな町</p> <p>(4) 管内社会教育委員連絡協議会研修会 期日：第1回目 令和6年5月28日（火） 場所：せたな町 第2回目 令和6年12月17日（火） 場所：せたな町</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	社会教育の計画立案にかかる法定の委員であり、妥当である。研修事業についても充実させる必要がある。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	社会教育事業の計画及び成果の評価を受けた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	報酬、費用弁償等の必要最低限の支出となっていることから効率性は高い。
総合評価	A	現状のまま維持する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	あっさぶいききライフポイント事業	中期計画上の位置づけ	生涯学習推進体制の充実
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R4実績
			— 千円
			R5実績
			75千円
			R6実績
			315千円
事業の目的 (求める成果)	人生100年時代を迎え、多世代が生涯にわたり芸術文化・スポーツに親しみ、心豊かな人生を育むため、生涯学習の推進と健康・体力づくりへの動機付け及び定着化を図ることを目的として実施する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>内容：社会教育事業への参加又は体育施設の利用者にポイントを付与し、達成者に記念品を贈呈する。</p> <p>前期 令和6年4月15日～9月30日</p> <p>参加数：171名</p> <p>達成数：99名</p> <p>後期 令和6年10月1日～令和7年3月31日</p> <p>参加数：132名</p> <p>達成数：75名</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	昨年度より多くの住民の参加を促すため、記念品額や付与ポイントを増やしたことは手段として妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	記念品額と付与ポイントを増やしたことで令和5年度に比べて全体の参加者、達成者数は増加した。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	B	ポイント増額をしたことで、参加者・達成者が増加し、記念品支出額が増大した。適切なインセンティブ設計が必要である。
総合評価	B	記念品の内容やより多くの年齢層が参加しやすいよう見直しを行ったうえで継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(3)芸術文化の振興

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町文化協会活動費助成事業	中期計画上の位置づけ		芸術文化活動の推進と 充実のための環境整備
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 4 実績	5 6 3 千円
			R 5 実績	7 2 1 千円
			R 6 実績	7 7 4 千円
事業の目的 (求める成果)	町内文化団体の活動費等に助成し、町文化団体の振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	1 文化協会活動費助成 ・加盟団体に対する活動費助成 8 団体 6 1 , 0 0 0 円 ・各種文化事業開催に係る共催・後援協力 2 文化団体活動施設管理事業 目的：平成 2 1 年度に解体となった社会教育センター研修棟で活動していた文化協会加盟 「陶芸愛好会」の活動場所を確保し町内文化活動の振興を図る。 期間：通年 場所：旧赤沼寿の家 対象：陶芸愛好会 内容：光熱水費（電気料・上下水道料）と修繕料等、施設運営・維持に関する経費を支出 3 第 6 2 回町民文化祭開催事業 (1) 芸能発表会：令和 6 年 1 1 月 3 日（日・祝） 場所：町民交流センター (2) 文芸作品展：令和 6 年 1 1 月 2（土）・3 日（日・祝） 場所：総合体育館 町民文化祭実行委員会主催、町内各地区運営実行委員会主管事業			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	町内の文化団体の活性化を目的として行政が文化協会加盟団体の活動を支援することは手段として妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	B	文化協会加盟団体の解散が続いており団体の活動継続を支援する取り組みが必要である。町民文化祭では体験コーナーの充実をはかり、カレーの提供を新たに行ったが参加者増加には繋がらなかった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	B	各文化団体発表機会の拡充を図り、団体活動を充実させることで、各補助金等のより有効な活用につなげる必要がある。
総合評価	B	町民文化祭では次年度に向けて体験コーナーの拡充を維持するとともに、芸能発表会の活性化に向けた工夫が必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町児童生徒芸術鑑賞会開催事業	中期計画上の位置づけ	質の高い芸術文化活動と体験機会の提供
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	<div>R 4 実績</div> <div>R 5 実績</div> <div>R 6 実績</div>
事業の目的 (求める成果)	町内児童生徒に対し、親しむことの少ない生の芸術鑑賞機会を提供する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	児童・生徒芸術鑑賞会の開催 期日：令和6年9月17日（火） 場所：町民交流センター 対象：町内小中学生 演目：「和心ブラザーズ 和楽器民謡コンサート」 内容：和楽器を使った流行曲等の演奏、小中学生の楽器演奏体験 公演団体：有限会社 Ezo' n music		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	小中学生を対象とした教育の一環として位置づけられることから、学校や業者と協議しながら教育委員会が主催することは妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	生の芸術文化を鑑賞する機会の少ない児童・生徒に身近な会場で鑑賞する機会を提供することができた。また、各学校の要望を踏まえた公演を選定しており、学校側が意図する学びに繋がっている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	事業の実施を業者に委託することで、教育委員会と学校の作業負担は最小限となっており、効率性は高い。
総合評価	A	今後も継続を要する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町教育・文化・スポーツ表彰事業	中期計画上の位置づけ	芸術文化活動の推進と充実のための環境整備
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R4実績 33千円
			R5実績 29千円
			R6実績 41千円
事業の目的 (求める成果)	厚沢部町の教育・文化・スポーツに優秀な成績を収めた者又は団体及び功労等が顕著であった者又は団体を顕彰し、もって、町の教育・文化・スポーツの振興を促進する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>内容：町内に在住する者もしくは町内出身者で、表彰基準を満たし、かつ、その功績が特に顕著な個人又は団体に対して、教育委員会において決定し、表彰を行う。</p> <p>方法：2月1日から翌年1月31日迄の実績とし、該当する個人等がある時は、所属長が推薦書（所定様式）を2月15日までに提出し、教育委員会で決定後毎年3月に表彰を行う。</p> <p>表彰者： スポーツ奨励賞 板坂彪我（柔道・中1） 桂川紗（卓球・小1） 加向春翔（空手・小2） 山本陽翔（空手・小5） 西口絢翔（空手・幼児） 工藤彩生（陸上・小4） 服部準大（陸上・小4）</p> <p>備考：H24年度より施行</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	町表彰規定に基づく事業であり、行政が実施することは妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	スポーツ奨励賞について表彰基準の該当者を表彰することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	記念品の支出であり、コスト削減の余地は無い。
総合評価	A	スポーツ奨励賞以外の候補者についても、各団体が推薦しやすいように周知方法等を工夫した上で継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		石 井 淳 平
事務事業名	文化財保護委員会活動事業	中期計画上の位置づけ		文化財の保存整備及び積極的な活用
1 0 款 5 項 2 目	文化財保護費	事業費	R 4 実績	9 3 千円
			R 5 実績	1 1 6 千円
			R 6 実績	1 7 1 千円
事業の目的 (求める成果)	(1)文化財指定に係る意見聴取 (2)文化財保護活用等について審議			
事業対象と手段 (誰に何を)	第1回文化財保護委員会 期日：令和6年5月28日（火） 場所：図書館視聴覚室、館城跡 内容：令和5年度文化財関係事業報告、令和6年度文化財関係事業計画等			
	第2回文化財保護委員会 期日：令和6年12月4日（水） 場所：図書館視聴覚室 内容：令和6年度文化財関係事業中間報告、令和7年度文化財関係事業計画等			
	町内文化財視察 期日：令和6年6月25日（火） 場所：史跡館城跡・稲倉石古戦場跡			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	町条例の規定する審議機関であり、現行の運営方法が最善である。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	文化財視察を行い、町の文化財の保存と活用にかかる議論をおこなうことができた。一方、平成21年の目名権現獅子舞の指定以来、財指定が行われていないことから、今後、新規の文化財の掘り起こしや価値の調査を進め、新指定に向けた取り組みを進める必要がある。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	出席委員の報酬及び費用弁償のみの支出であり、コスト削減の余地なし。
総合評価	B	町の文化財について審議する唯一の専門機関のため、新指定に向けて今後も継続を要する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	館城跡管理事業	中期計画上の位置づけ	館城跡の保存整備・活用
10款5項2目	文化財保護費	事業費	R4実績
			1,304千円
			R5実績
			1,326千円
			R6実績
			2,562千円
事業の目的 (求める成果)	史跡館城跡維持管理		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>1 館城跡公園管理業務 期日：5月29日、6月9日、7月16日、8月6日 内容：年4回の草刈 対象：史跡全域3回、公園部分刈り1回</p> <p>2 館城跡機械刈り業務 期日：5月～8月 内容：館城跡旧民有地の除草 6月4日、7月16日、8月7日 史跡北部の旧農地部を機械によって除草する。 備考：堀部分の刈り残しを取りやめた。</p> <p>3 館城跡公園桜樹木剪定業務 期日：令和7年3月31日 内容：館城跡公園の桜（ソメイヨシノ等）150本について、天狗巢病剪定、枯枝剪定、枝切詰めを行う。</p> <p>4 館城跡公園樹木保存管理業務 期日：令和6年5月7日完了 内容：館城公園内の支障木、危険木の伐採。</p> <p>5 館城跡公園トイレ清掃管理 期日：5月～11月 内容：館城跡公園トイレの清掃・保守・消耗品補充</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	史跡の活用に係る管理作業であり、行政が実施することは妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	適切な管理が行われるよう、物価上昇等を考慮し契約内容の見直しを行った上で事業を実施した。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	必要最低限の管理経費のみの支出であり、コスト削減の余地はない。
総合評価	A	地元町内会や観光団体等の協力を得ながら、引き続き適切な管理を行う。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	石 井 淳 平
事務事業名	館城跡保存整備事業	中期計画上の位置づけ	館城跡の保存整備・活用
10款5項2目	文化財保護費	事業費	R4実績 8,458千円
			R5実績 4,864千円
			R6実績 11,572千円
事業の目的 (求める成果)	史跡館城跡の保存と活用のための整備事業の実施		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>①発掘調査現地説明会 期 日：令和6年6月9日（日）10時00分～15時00分 （館城跡まつり開催時に実施） 参加者：19名 内 容：館城跡発掘調査現場の解説を行った。雨天のため、祭り会場が館地域振興センターに変更となったため、来場者は当初予定の100名から大幅に減少した。 対 象：館城跡まつり来場者及び町民</p> <p>②館城跡保存整備検討委員会開催 第1回検討委員会 期 日：令和6年7月4日（木）～5日（金） 内 容：委員長副委員長選任、発掘調査現地指導、館城跡保存整備基本計画改訂版案について 第2回検討委員会 期 日：令和6年9月24日（火）～25日（水） 内 容：館城跡保存整備事業現地指導、令和6年度発掘調査成果について、館城跡保存整備基本計画改訂版案について、令和7年度館城跡保存整備事業計画について 第3回検討委員会 期 日：令和7年2月18日（火）～19日（水） 内 容：令和6年度館城跡発掘調査報告書案について、館城跡保存整備基本計画改訂版案について</p> <p>③発掘調査 期 日：5月13日（月）～7月22日（月） 内 容：御殿西側建物の規模と範囲を確認するとともに、南東部の土塁の断面確認調査を行った。</p> <p>④館城跡保存整備事業にかかる住民説明会 期 日：令和6年11月14日（木）18時30分～ 場 所：館地域振興センター 参加者：12名 内 容：令和6年度の発掘調査成果を報告するとともに、策定中の基本計画改訂版案について説明し、今後の整備事業の展望について住民の意見や質疑を受けた。</p> <p>⑤館城跡発掘調査成果展示 期 日：令和6年11月2日（土）～3日（日） 場 所：総合体育館アリーナ 内 容：文化祭展示として館城発掘調査成果のパネル展示を実施した。</p>		

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	B	出土遺物が当初積算から大幅に増加したため、報告書页数や整理作業時間が当初の予定を超過した。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	館城跡御殿にかかわる重要な知見が得られた。さらに基本計画改訂版を策定したことで次年度以降、基本設計へと整備工程を進めることが可能となった。住民説明会や発掘調査現地説明会、成果展示を開催することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	国庫補助を活用し、効率的に事業を進めている。
総合評価	B	史跡整備にかかる体制整備と、整備事業のさらなる活用や広報が必要である。

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	文化財保護事業	中期計画上の位置づけ	文化財の保存整備及び積極的な活用
10款5項2目	文化財保護費	事業費	R4実績 79千円
			R5実績 75千円
			R6実績 144千円
事業の目的 （求める成果）	厚沢部町の文化財の保存及び活用のために必要な措置を講ずる		
事業対象と手段 （誰に何を）	①普通旅費 南北海道考古学情報交換会 ②消耗品費 月刊文化財等購入 ③負担金 北海道文化財保護協会負担金、全国史跡整備市町村協議会負担金 北海道文化財保存整備連絡協議会負担金 ④説明看板の設置 米揚岱に説明看板を設置		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	埋蔵文化財保護に係る全道や全国規模の組織に加盟し、情報共有や自治体間で連携するために行政が実施すべきである。
成果 （意図した成果があがったか）	A	文化財保護行政推進のための情報交流や情報収集を実施し、十分な成果があった。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	各種団体加盟負担金が主であり、コスト削減の余地は無い。
総合評価	A	今後も各種団体に加盟し、連携、協力を継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	郷土資料館活用事業	中期計画上の位置づけ		郷土資料館を中心とした資料の保存・調査研究・活用体制の構築
1 0 款 5 項 2 目	文化財保護費	事業費	R 4 実績	4 9 千円
			R 5 実績	1 3 0 千円
			R 6 実績	9 8 千円
事業の目的 (求める成果)	厚沢部町郷土資料館を活用し、厚沢部町開拓の歴史、民俗、産業に関する資料を保管、調査、展示する			
事業対象と手段 (誰に何を)	1 郷土資料館講座「水中考古学 最強軍艦に挑む！」 期 日：令和7年3月18日（火） 18時30分～19時30分 場 所：厚沢部町図書館視聴覚室 講 師：小峰彩椰氏（江差町教育委員会） 参加者：10名 2 郷土資料館企画展「発掘された館城跡」 期 日：令和6年11月2日（土）～3日（日・祝） 場 所：厚沢部町総合体育館 備 考：文化祭一般展示として展示 3 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 (1) 第1回役員会 期 日：令和6年5月30日（木） 場所：七飯町 (2) 第2回役員会 期 日：令和6年8月29日（木） 場 所：七飯町 (3) 第3回役員会 期 日：令和6年12月19日（木） 場 所：七飯町 (4) 総会及び研修会 期 日：令和6年6月19日（水） 場 所：乙部町公民館 内容：総会及び民俗芸能の保存と活用をテーマにした研修会 (5) 北海道博物館大会運営補助 期 日：令和6年7月11日（木） 場 所：函館市市民会館 内 容：北海道博物館大会運営用務に道南ブロック博物館視せ等連絡協議会加盟館として従事 (6) 南北海道文化財データベース作成にかかる「もくもく会」 期 日：令和6年10月9日（水） 場 所：森町公民館 内 容：道南ブロック博物館施設等連絡協議会とはこだて未来大学が共同で運営する「南北海道の文化財」データベースの入力方法の指導と実践、今後の改善方法についての議論を行った。また、データベース内で用いられる表現について在日外国人の方も理解できるような平易な表現方法について学んだ。			

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	郷土資料館の活用事業として行政が実施することは妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	B	郷土資料館講座について参加者を20名と見込んでいたが、予想を下回った。周知時期が早すぎた可能性があるため、周知方法を見直す必要がある。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	必要最低限の出費でありコスト削減の余地は無い。
総合評価	B	周知方法等を工夫した上で今後も継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	鹿子舞交流協議会運営費助成等事業	中期計画上の位置づけ		郷土資料館を中心とした資料の保存・調査研究・活用体制の構築
1 0 款 5 項 2 目	文化財保護費	事業費	R 4 実績	1 9 3 千円
			R 5 実績	2 0 0 千円
			R 6 実績	1 8 5 千円
事業の目的 （求める成果）	郷土芸能である「鹿子舞」の保存伝承と町民の文化財への関心を高める鹿子舞交流協議会の運営を支援する。			
事業対象と手段 （誰に何を）	1 鹿子舞交流協議会運営費助成 交付決定日：4月16日（火） 内容：厚沢部町鹿子舞交流協議会運営事業費を助成する（200，000円）。 2 新春町内鹿子舞交流会 期 日：1月19日（日） 場 所：町民交流センターあゆみ 出 演：美和権現獅子舞、富栄鹿子舞 来場者：120名 3 東京厚沢部会25周年総会公演 期 日：3月8日（土） 場 所：東京グリーンパレス（東京都） 出 演：富栄鹿子舞 来場者：65名			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	厚沢部町指定文化財を継承する団体で構成される協議会への助成事業であり、行政が実施することは妥当である。
成 果 （意図した成果があがったか）	B	鹿子舞交流協議会が開催され、厚沢部町の郷土芸能を広く周知することができた。学校等での鹿子舞や郷土芸能を活用した取り組みは低調となっており、地域と学校が連携し、郷土芸能を保存する取り組みが必要である。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	B	連絡協議会への助成であることから、各団体の現状や課題について把握が難しい場合がある。適正な助成を行う為に連絡協議会と調整を行うことが望ましい
総合評価	B	地域の教材として郷土芸能を活用し、新たな活動機会の創出を図る必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)図書館活動

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	図書館管理事業	中期計画上の位置づけ		誰もが楽しめる読書環境の整備と事業の充実
1 0 款 5 項 3 目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R 4 実績	8 , 3 0 4 千円
			R 5 実績	7 , 6 6 4 千円
			R 6 実績	2 4 , 6 6 4 千円
事業の目的 (求める成果)	町民の全世代が利用しやすく気軽に利用できる図書館、憩いの場としての図書館とするため、図書館の運営に対し必要な管理を行う。			
事業対象と手段 (誰に何を)	1 報償費 ・ 図書館代替事務員報償費			
	2 旅費 ・ 北海道図書館振興協議会総会等旅費			
	3 需用費 ・ 消耗品費 → 新聞購読料、雑誌等購入費、コロナ用消毒液、その他管理用消耗品 ・ 燃 料 費 → A重油、灯油、プロパンガス ・ 光熱水費 → 電気料、水道料 ・ 修 繕 料 → 郷土資料館展示コーナー照明修繕等			
	4 役務費 ・ 通信運搬費 → 電話料、インターネット利用料等 ・ 手 数 料 → 白布クリーニング等 ・ 火災保険料			
	5 委託料 床ワックス掛、消防用設備点検、ボイラー保守点検、自家用電気保安業務 自動制御機器保守点検、自動ドア保守点検、外調機保守点検 郷土資料館映像装置機器点検、重油地下タンク等検査、前庭樹木及び芝生管理			
	6 使用料及び賃借料 ・ テレビ受信料、プリンター借上料			
	7 備品購入費 ・ 図書・視聴覚資料用備品 → 図書・視聴覚資料等 ・ 施設管理用備品 → 紙芝居スタンド			
	8 負担金 北海道図書館振興協議会負担金			
	9 工事請負費 (1) 図書館・郷土資料館エアコン設置工事 実績：6,578,000 円 (2) 図書館・郷土資料館重油地下タンク廃止・タンク設置工事 実績：9,108,000 円			

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	公共施設の管理事業であり、利用者へのサービス向上、及び 当町児童生徒の読書環境の向上のために、適切な管理を行い 今後もサービスを提供すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	ボイラーの不調が発生したが、修繕を行い、施設運営を継続 することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	B	修繕と交換工事のコストを比較し、計画的な対応を進める必要 がある。
総合評価	B	適切な施設管理及び計画的な修繕を進める必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	読書啓発事業（読み聞かせ会開催）	中期計画上の位置づけ	誰もが楽しめる読書環境の整備と事業の充実
10款5項3目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	<div>R 4 実績</div> <div>R 5 実績</div> <div>R 6 実績</div>
			<div>261千円</div> <div>210千円</div> <div>50千円</div>
事業の目的 （求める成果）	町民の読書への関心を深めるため、読み聞かせサークル団体との連携を図り、図書館等で楽しみながらお話にふれる機会を提供する。 町内児童生徒の文芸活動を振興し、情操の涵養と想像力豊かな少年少女の育成を図る。		
事業対象と手段 （誰に何を）	1 読み聞かせ会開催 （1）図書館まつり 期日：令和6年11月3日（日・祝） 場所：図書館 参加数22名 （2）出張読み聞かせ会開催 期日：令和6年12月18日（水） 場所：鶴小 講師：1名 2 読書手帳事業 学齢児童生徒の読書活動の啓発と図書館利用促進に向けた取り組みとして実施 期間：令和6年6月18日～令和7年3月31日 配布先：町内小中学生 達成数：14名（小学生14名：中学生0名）		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	図書館の書籍を用いた読書啓発事業であり、読み聞かせは子どもが読書を開始するきっかけとして効果が高い。行政が実施することは妥当である。
成 果 （意図した成果があがったか）	B	読書手帳事業について中学生の参加が見られなかった。中学生を対象とした事業内容の見直しが必要である。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	講師費用弁償等の必要最低限の出費であり、コスト削減の余地は無い。
総合評価	B	中学生を対象とした事業内容を見直したうえで継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	移動図書館バス運行事業	中期計画上の位置づけ		誰もが楽しめる読書環境の整備と事業の充実
1 0 款 5 項 3 目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R 4 実績	1 8 5 千円
			R 5 実績	4 8 0 千円
			R 6 実績	4 6 4 千円
事業の目的 (求める成果)	町民に対する読書を啓発するため、移動図書館バスを運行し、読書機会を提供する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①移動図書館バス「あすなろ号」の運行			
	運行日：原則第2週・第4週の木・金曜日(年42回運行)			
	場 所：鶉小学校、館小学校を基本に町内4ステーションを運行			
	②移動図書館バス運行経費			
	移動図書館バス運転手報酬			
	※会計年度任用職員のため、総務費で計上			
	消耗品費、燃料費、小破修繕料、タイヤ交換手数料、自動車共済保険料、			
	12ヵ月点検手数料			
	※2年に1度、移動図書館バスの法定点検、自賠責保険、			
	重量税の経費がかかる (R7実施予定)			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	図書館に通うことが困難な小学生や高齢者に読書の機会を提供する手段として、移動図書館バスの運行は妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	図書館に通うことが困難な住民に読書の機会を提供することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	移動図書館バスの維持管理経費等の必要経費の支出でコスト削減の余地は無い。
総合評価	A	今後も継続を要する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	ブックスタート・ブックスタート フォローアップ事業	中期計画上の位置づけ	誰もが楽しめる読書環境 の整備と事業の充実
10款5項3目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R4実績 16千円 R5実績 29千円 R6実績 2千円
事業の目的 (求める成果)	「絵本」をととして、子どもと保護者がいろいろな本と出会う基盤づくりを図るとともに、 家庭教育力の向上を資する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>1 ブックスタート事業</p> <p>場所：保健福祉センター</p> <p>内容：9～10か月の幼児健診時に、読み聞かせやブックスタートパック（絵本、イラスト アドバイス集等）を手渡しし、子どもと保護者の家庭教育力の向上を推進する。</p> <p>【第1回】令和6年6月28日（金） 参加数1名</p> <p>【第2回】令和6年10月18日（金） 参加数3名</p> <p>【第3回】令和7年2月28日（金） 参加数4名</p> <p>2 ブックスタートフォローアップ事業</p> <p>場所：保健福祉センター</p> <p>内容：ブックスタート事業後のフォローアップとして2歳児相談時に、対象年齢に応じた 絵本の紹介（ブックトーク）や読み聞かせを行う。</p> <p>【第1回】令和6年8月30日（金） 参加数1名</p> <p>※ブックスタートボランティアと図書館係で実施</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	保健師や地域住民ボランティアと図書館職員が連携して実施 しており、教育委員会が実施することは妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	絵本の読み方などにより乳幼児の関心を引き絵本に対する興味 を引き出すことができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	地域住民ボランティアと協働し必要最低限の費用で実施して おり、コスト削減の余地は無い。
総合評価	A	関係者の声を聴きながらボランティアと協働し事業を継続 する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	子ども読書活動推進計画事業 町図書館・学校図書館連携事業	中期計画上の位置づけ	誰もが楽しめる読書環境 の整備と事業の充実
10款5項3目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	<div>R 4 実績</div> <div>17千円</div> <div>R 5 実績</div> <div>6千円</div> <div>R 6 実績</div> <div>9千円</div>
事業の目的 (求める成果)	「全ての子どもたちが、あらゆる機会と場所において自主的に読書活動を行えるよう積極的に環境整備が推進されなければならない」という子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念に則り、当町の子どもたちも自主的に読書活動を行うよう、学校図書館の充実や課題解決に向け連携を図るとともに、中期的な視点で環境整備が図れるよう、推進計画の現状課題や、内容についての協議を行う。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>1 町図書館・学校図書館連携事業</p> <p>学校への団体貸出等を行い、学校図書館の充実を図るため、読書活動推進事務員を置く 読書活動推進事務員報酬及び期末手当</p> <p>※会計年度任用職員のため、総務費で計上。 (上記R6予算に含まず。(予算1,179千円))</p> <p>2 厚沢部町子ども読書活動推進委員会</p> <p>(1) 期日：令和7年3月12日（水）</p> <p>(2) 内容：・令和5年度「厚沢部町子ども読書活動推進計画」活動報告及び令和6年度 「厚沢部町子ども読書活動推進計画」活動計画</p> <p>・各機関・団体代表者より現状での課題や改善策等に関する意見交換</p> <p>(3) 参加者：5名</p> <p>※厚沢部町子ども読書活動推進計画事業については令和4年度作成済みのため次回開催は令和9年度を予定（5ヵ年計画）</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	厚沢部町子ども読書活動推進計画に基づく活動であり行政が実施することは妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	学校と連携をとりながら、子ども読書活動推進計画の進行状況を確認することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	必要最低限の経費でありコスト削減の余地は無い。
総合評価	A	厚沢部町子ども読書推進計画に基づき、今後も継続するべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(5) ふるさと創生事業

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	伝統技能伝承講座開設事業	中期計画上の位置づけ	多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
10款5項4目	ふるさと創生事業費	事業費	R4実績 0千円
			R5実績 26千円
			R6実績 26千円
事業の目的 (求める成果)	消えゆく恐れのある伝統的な食材や料理法、質の良い食品を守る。 日本の昔ながらの遊びを小学生に伝承し、古来の文化を体感するとともに異世代間の交流。		
事業対象と手段 (誰に何を)	1 郷土料理教室 インフルエンザ流行のため中止 2 昔の遊び教室 期日：令和7年2月16日（日） 対象：町内小中学生 参加者数：44名 内容：町内児童・生徒を対象に昔の遊び教室やかかるた教室の実施 備考：R6年度から新春子どもかるた大会、家庭教育学級を本事業に統合		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	厚沢部町の文化の伝承や世代間交流を目的として地域住民と協働しながら教育委員会が実施することは手段として妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	郷土料理教室がインフルエンザ流行のため中止となった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	講師報酬と材料費の出費が主であり、コスト削減の余地は無い。
総合評価	A	今後も継続を要する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	創造の翼中学生研修派遣事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 4 目	ふるさと創生事業費	事業費	R 4 実績	3 , 4 4 3 千円
			R 5 実績	2 , 8 9 7 千円
			R 6 実績	3 , 6 2 3 千円
事業の目的 (求める成果)	平和の尊さと命の大切さを学ぶとともに独特の文化や歴史、自然に触れ、これからの日本と厚沢部町に有益な見識を培い人材を育成する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	厚沢部中学校の修学旅行への補助事業として実施 1 令和6年度創造の翼中学生研修派遣事業内容 期日：令和6年4月21日（日）～24日（水） 場所：九州方面（福岡県、長崎県、熊本県、鹿児島県） 内容：歴史と現状、自然、文化、産業、生活の見聞、平和教育 人数：中学生28名、引率5名 2 報告会 時期：令和6年7月9日（火） 場所：厚沢部中学校 内容：研修成果の報告			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	中学生による研修は、歴史、文化、生活、産業、自然などを見聞・吸収し、有意義なものであり、全校生徒を対象としているため教育委員会が行うことが妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	道外の文化に触れ、多様な体験活動が実施された。この体験で得た知識や考え方を基に実生活の様々な課題に取り組むことが期待される。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	補助金は研修旅費等研修の実施計画に基づき、効率的に運用されており、コスト削減の余地はない。
総合評価	A	当該事業は中学生にとっては貴重な体験が出来、有意義なものであり、継続していくべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町文化講演会開催事業	中期計画上の位置づけ	質の高い芸術文化活動と体験機会の提供
10款5項4目	ふるさと創生事業費	事業費	<div>R 4 実績</div> <div>R 5 実績</div> <div>R 6 実績</div>
			<div>6 1 6 千円</div> <div>4 3 7 千円</div> <div>9 7 0 千円</div>
事業の目的 (求める成果)	地域づくりや仲間づくり、健康、子育て、芸術文化、スポーツなどの多様な分野の講演会を複数回開催することで、心豊かな人物の育成を図るとともに、地域の教育力の向上を図る。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>1 第1回講演会</p> <p>期日：令和6年10月6日</p> <p>参加数：49名</p> <p>会場：厚沢部町町民交流センター</p> <p>講師：落語家 林家さく姫</p> <p>内容：講演「人生涙あり笑いあり！～」落語「松山鏡」</p> <p>2 第2回講演会</p> <p>期日：令和7年1月11日（土）</p> <p>参加数：180人</p> <p>講師：杉谷 拳士氏（元北海道日本ハムファイターズ所属選手）</p> <p>内容：講演会「前進の心得」</p> <p>備考：講演前に厚沢部中学校野球部、厚沢部スラッガーズを対象とした野球教室を開催</p> <p>※2回中1回はスポーツ選手による講演を予定</p>		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	地域の教育力の向上のため、行政が講演会を企画することは妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	第2回講演会には多くの参加者があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	主に講師依頼経費でありコスト削減の余地はない。
総合評価	A	時勢にあったテーマの選定を心掛けながら今後も継続する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(6)スポーツの振興

主管係	社会教育係	記入者	佐藤 優平
事務事業名	学校施設開放事業	中期計画上の位置づけ	スポーツ施設の整備充実
10款6項1目	保健体育総務費	事業費	R4実績 54千円
			R5実績 60千円
			R6実績 69千円
事業の目的 (求める成果)	町内各地区の学校施設（体育館等）を開放し、地域住民のスポーツ振興を図る。		
事業対象と手段 (誰に何を)	町内小学校施設（体育館等）を開放し各団体の活動を推進する ・厚沢部小学校 バスケットボールクラブ、厚沢部 AC(陸上少年団) 延べ101回 1,052名 ・鶺鴒小学校 申請団体無し ・館小学校 館町体育愛好会（スポ協）、館地区羽球少年団（スポ少） 延べ37回 496名 ※小学校体育館を利用していた多くの団体は、総合体育館を利用している。		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	鶺鴒地区、館地区については総合体育館から離れており、各地域で活動できる場の確保が必要である。下地区についても総合体育館の定期利用が混雑しており、練習の場の確保として妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	昨年度に続き、館地区の利用者数が大幅に増加した。(R5年度199名)下地区から離れている地区においても、スポーツ関連のイベントといった1回きりの機会のみならず、定期的なスポーツ活動も行われている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	監視員の報償費のみであり、コスト削減の余地なし。
総合評価	A	町内スポーツ団体の活動の場を提供することで、スポーツ振興が図られている。下地区、鶺鴒地区、館地区の地域間の差がないように今後も継続していく必要がある。また、鶺鴒地区における今後の当事業についての方向性は検討の必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		佐 藤 優 平
事務事業名	生涯スポーツ振興事業	中期計画上の位置づけ		町民皆スポーツの奨励 推進
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 4 実績	2 2 9 千円
			R 5 実績	4 5 5 千円
			R 6 実績	4 5 9 千円
事業の目的 (求める成果)	各種スポーツ講座・大会等を開設し、青少年及び一般町民のスポーツ振興、技術の向上を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①心肺蘇生法、AED実技講習会 期日：令和6年5月28日（火） 場所：図書館視聴覚室 参加対象：体育施設関係者、体育団体関係者、学校関係者 参加者：11名 内容：AED設置施設関係者を対象とした心肺蘇生法、AED実技講習会			
	②生涯スポーツ講座「バスケットボールクリニック」 期日：令和6年7月15日（月・祝） 場所：総合体育館 対象：町内児童生徒 参加者：23名 講師：牧 全氏（レバンガ北海道アシスタントコーチ兼通訳） 坂井 智彦氏（レバンガ北海道バスケットボールアカデミーコーチ） 内容：プロ経験者による技術指導			
	① 小学生スイミングスクール 期日：令和6年7月29日（月）～8月2日（金）4回実施（土日除く） 場所：厚沢部町民プール 対象：町内小学校1年生～4年生 受講者：22名 内容：小学校1年生～4年生を対象とした水泳教室			
	② 第41回厚沢部町小中学生水泳競技大会 期日：令和6年8月22日（木） 場所：厚沢部町民プール 参加対象：町内小中学生 参加者：4名 内容：町内小中学生水泳競技大会			
	③ 館地区及び鶉地区プール利用者バス送迎事業（生涯スポーツ振興事業へ統合） 期間：令和6年7月27日（土）～8月25日（日）の計16日間運行 内容：館地区及び鶉地区在住町民が、町民プールを利用する際に利用可能なバスの運行・送迎事業 実績（延べ人数）：子供192名、大人56名 計248名			
	⑥小学生スキー教室 期日：令和7年1月20日(月)～令和7年1月31日（金） 場所：太鼓山スキー場 参加対象：小学校1年生～6年生 受講者：25名 内容：小学生を対象としたスキー教室			

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	学習、大会等の機会を提供するために行政が実施すべきである。
成果 (意図した成果があがったか)	A	全事業を予定通り実施し、運動する機会や技術向上の目標となる大会を開催しスポーツの推進が図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	B	各事業ともに講師の報償費及び消耗品費等必要経費の支出であり、実施事業に関するコスト面では削減の余地なし。 一方、参加者数の減少などの理由から、継続を検討すべき事業もある。
総合評価	B	現存の事業に対する継続の検討および、事業内容の見直しをはかり、今後も事業のブラッシュアップを図る。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		佐 藤 優 平
事務事業名	厚沢部町スポーツ少年団本部助成事業	中期計画上の位置づけ		指導者及び関係団体の育成
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 4 実績	5 4 4 千円
			R 5 実績	1 , 6 0 8 千円
			R 6 実績	7 0 9 千円
事業の目的 (求める成果)	町スポーツ少年団の大会参加料等を助成し、青少年のスポーツ振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>①全国・全道大会参加経費助成 随時</p> <p>②各種大会参加経費（参加料）助成 ・対象：空手、剣道、柔道、野球、羽球、陸上、（バスケ）</p> <p>③スポーツ少年団交流会 ・期日：令和7年3月25日（火） ・場所：総合体育館アリーナ及び図書館視聴覚室 ・参加対象：厚沢部町スポーツ少年団の各单位団に所属する団員 ・参加者：33名 ・内容：スポーツで最大の可能性を引き出すリズム&メンタルトレーニング</p> <p>④各スポーツ少年団活動費助成 ・対象：少年団（柔道、剣道、野球、羽球、バレー、HipHop ダンス、空手、陸上、水泳、バスケ）</p> <p>⑤日本スポーツ少年団登録料助成 ・対象：指導員、スタッフ、役員、団員（柔道、剣道、野球、羽球、バレー、空手、陸上、バスケ）</p> <p><本部総会開催>期日：令和6年6月26日（水）場所：図書館視聴覚室 ※バスケットボールクラブより、単位団として新規加盟申請があり、今年度総会にて承認された。</p> <p><本部役員会開催>期日：令和6年11月29日（金） 場所：図書館視聴覚室 ※助成基準見直しについての説明会として実施。</p> <p><管内総会開催> 令和7年2月17日（月） オンライン開催</p>			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	B	各単位団への各種助成の助成基準については見直しの必要があり、活動の現状に即した基準改正が必要である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	コロナ禍以前の活動形態に戻り、少年団活動自体が昨年に比べ活発化していた。その中で前向きに練習に取り組む姿勢はスポーツの推進において一定の効果があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	B	助成は各少年団の育成に必要である。本部事務局については行政ではなく、民間の任意団体として自主的に担っていく必要があり、今後の検討課題である。 令和7年度より、改正後の基準による助成を開始するにあたり、今後に必要な部分は適宜変更や修正していくことが必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		佐藤 優平
事務事業名	厚沢部町スポーツ協会助成事業	中期計画上の位置づけ		指導者及び関係団体の育成
10款6項1目	保健体育総務費	事業費	R4実績	611千円
			R5実績	120千円
			R6実績	183千円
事業の目的 (求める成果)	町体育協会の大会運営費等を助成し、町民のスポーツ振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①スポーツ協会主催事業助成事業 町内歩け歩け運動 期日：令和6年10月26日（土） 場所：鶴町周辺コース 参加数：23名			
	②スポーツ協会加盟団体主催事業助成事業（6種目） 種目：野球・パークゴルフ・ソフトバレーボール・バドミントン・スキー・剣道・バスケ			
	③檜山管内スポーツフェスタ派遣事業：4種目 軟式野球 期日：中止 バドミントン 期日：不参加 会場：今金町 卓球 期日：不参加 会場：奥尻町 ソフトバレーボール 期日：令和6年11月24日（日） 会場：乙部町 参加人数：厚沢部町会員15名 パークゴルフ 期日：令和6年9月28日（土） 会場：厚沢部町多目的交流広場 参加人数：厚沢部町会員16名			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	B	一般町民のスポーツ活動の振興がなされており、妥当である。 各連盟に対する各種助成の助成基準については見直しの必要があり、活動の現状に即した基準改正が必要である。
成果 (意図した成果があがったか)	B	スポーツフェスタ派遣事業については、各競技の競技人口に大きく差があり、競技によっては参加人数不足による中止も多くみられた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	B	総合体育館の定期利用を申請し、活発に活動している団体も存在するため、一般町民のスポーツ活動の振興に必要である。 令和7年度より、改正後の基準による助成を開始するにあたり、今後も必要な部分は適宜変更や修正していくことが必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		佐藤 優平
事務事業名	スポーツ推進委員活動費	中期計画上の位置づけ		指導者及び関係団体の育成
10款6項1目	保健体育総務費	事業費	R4実績	143千円
			R5実績	133千円
			R6実績	111千円
事業の目的 (求める成果)	生涯スポーツに関する諸計画の立案及び調査研究、委員としての活動と生涯スポーツ指導の効果的推進に関する諸問題について審議する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	＜第1回厚沢部町スポーツ推進委員会＞ 期日：令和6年6月12日(水) 場所：図書館視聴覚室 参加人数：4名 ＜第2回厚沢部町スポーツ推進委員会＞ 期日：令和6年12月19日(木) 場所：図書館視聴覚室 参加人数：6名 ＜管内スポーツ推進委員協議会＞ 期日：令和6年5月21日(火) 場所：厚沢部町 参加人数：10名			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	事務局が行政であるためこのままの方向性で妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	当町の社会体育事業の振興に大きく寄与している。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	報償費、費用弁償のみの支出となっていることから、効率性は高い。
総合評価	A	今後も同様に社会体育事業の計画等に提言していただき、当町のスポーツ振興を目指していく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主管係	社会教育係	記入者		石 井 淳 平
事務事業名	地域スポーツクラブ活動体制整備事業	中期計画上の位置づけ		指導者及び関係団体の育成
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 4 実績	0 千円
			R 5 実績	千円
			R 6 実績	9 6 9 千円
事業の目的 (求める成果)	スポーツ部活動の地域移行に必要な体制整備を行う。			
事業対象と手段 (誰に何を)	<p>(1) 検討委員会の開催 第1回検討委員会 期日：令和7年2月5日(水) 場所：図書館視聴覚室 参加人数：8名 内容：部活動地域移行に関する考え方と今後の方針について審議した。</p> <p>第2回検討委員会 期日：令和7年2月12日(水) 場所：図書館視聴覚室 参加人数：12名 内容：部活動地域移行にかかるロードマップと現行部活動の対応方針</p> <p>(2) 指導者配置体制整備事業 期日：11月16日、12月7日、12月14日、1月18日 講師：小田千尋氏 内容：外部講師を活用した中学校運動部員を対象とした体力トレーニング</p> <p>(3) トップアスリートによる野球指導 期 日：令和7年1月11日(日) 場 所：厚沢部町総合体育館 講 師：杉谷拳士氏(元日本ハムファイターズ) 内 容：野球少年団員及び中学校野球部員を対象とした野球指導 参加者：31名</p>			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	部活動地域移行に向けて、町内外スポーツ団体、学校、他自治体との協議を進めるうえで、教育委員会事務局が主体となって進めていく必要がある。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	部活動地域移行に向けて、基本方針及びロードマップの整理を行うことができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	報償費、費用弁償のみの支出となっていることから、効率性は高い。
総合評価	A	部活動地域移行に向けた課題の整理や調整事務を引き続き進めていく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(7) 体育施設活用／管理

主 管 係	社会教育係	記入者		佐 藤 優 平
事務事業名	総合体育館管理事業 (テニスコート管理含む)	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の整備充実
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 4 実績	1 0 , 4 2 0 千円
			R 5 実績	1 2 , 3 1 5 千円
			R 6 実績	1 4 , 0 9 1 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに務める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①報償費 ・総合体育館代替職員報償費 ※総合体育館管理清掃員は、会計年度任用職員のため、報酬、期末手当、雇用保険、社会保険料、費用弁償については総務費で計上。 ②需用費 ・消耗品費 → トイレトペーパー、蛍光灯、清掃用具等 ・燃 料 費 → A 重油、灯油、プロパンガス、その他 ・光熱水費 → 電気料 ・修 繕 費 → 小破修繕 ③役務費 ・火災保険料 ・手 数 料 → ・モップクリーニング料・その他 ・通信運搬費 → ・公衆電話料 ④委託料 ・床ワックス掛・消防用設備等点検・暖房設備保守点検・音響設備保守点検 ・照明制御装置保守点検・舞台吊物設備、電動暗幕装置保守点検・ゴミ収集 ⑤使用料及び賃借料 ・A E D 借上料 ⑥備品購入費→ モップ、メガホン等 ⑦工事請負費 ・バスケットゴール更新工事(4, 1 8 0 千円) ※ゴールの高さを、成人用から子どもがプレイ出来る高さにまで調節可能な昇降機付きのバスケットゴールに更新。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	事務局が施設内にあることから行政が実施し、現状維持が望ましい。
成果 (意図した成果があがったか)	A	全体利用者数は21,314人(R5年度18,687人)と、2,627人増加した。全体利用者のうち、町内利用者は17,378人(R5年度14,672人)であり、全体の8割以上を占めている。 コロナ禍後、開設状況が通常化したことや、バスケットゴールの更新により、町内スポーツ団体等の定期的な利用が増加した。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	現状維持が望ましい。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主 管 係	社会教育係	記入者	佐 藤 優 平
事務事業名	多目的交流広場管理事業	中期計画上の位置づけ	スポーツ施設の整備充実
10款6項2目	体育施設費	事業費	R4実績 3,241千円
			R5実績 6,958千円
			R6実績 4,086千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに務める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①需用費 ・消耗品費 → スコア用ペン、ティーグラウンド用パレット、カップ他 ・燃料費 → レギュラーガソリン（芝刈機用）、混合油 ・食糧費 → 飲料代（開設、閉鎖作業時） ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修繕費 → トイレ網戸取り付け・他小破修繕 ②役務費 ・火災保険料 ③委託料 ・芝管理委託、樹木管理委託、芝刈・清掃等管理委託、樹木伐採業務委託、券売機リース契約更新 ④使用料及び賃借料 ・券売機賃借料 ⑤備品購入費 ・ホース巻き取り機・カラーボード購入費		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段？)	A	パークゴルフ場整備についてはパークゴルフ協会の協力のもと行政と住民協働しながら管理を行っている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	利用者数は4,217人（R5年度3,812人）と396人増加した。芝生をはじめとした、施設の適切な維持管理と、管内大会等の開催により、利用者数が増加した。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	備品の新規購入により、作業の効率化が図られ、通常のコストの削減につながった。
総合評価	A	高齢者の利用が多く、健康増進に寄与している。 良好な管理を継続し、更なる有効活用を図るため、施設内設備・備品等の適切な更新に努める。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主 管 係	社会教育係	記入者		佐 藤 優 平
事務事業名	町民プール管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の整備充実
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 4 実績	9 , 3 7 1 千円
			R 5 実績	5 , 2 3 7 千円
			R 6 実績	5 , 4 2 9 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに務める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①報償費 ・町民プール管理人代替職員報償費、町民プール監視人代替職員報償費 ※町民プール管理人及び監視人は会計年度任用職員のため、報酬、期末手当、雇用保険、社会保険料、費用弁償については総務費で計上。 ②需用費 ・消耗品費 → 管理用消耗品 ・燃 料 費 → 灯油 ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修 繕 費 → 小破修繕 ③役務費 ・火災保険料 ・通信運搬費 → 公衆電話料 ④委託料 清掃業務、水質検査業務、遠赤外線暖房機保守点検、消防用設備等点検、自動ドア定期保守点検、循環浄化装置保守点検 ⑤使用料及び賃借料 ・A E D 借上料 ※町民プール管理人・監視員の報酬、雇用保険、費用弁償について、会計年度任用職員のため、総務費で計上し、上記 R 6 予算に含んでいない。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	学校の授業や社会教育事業で使用するため、行政が実施すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	今年度は、昨年度よりも開設時間を延長し営業した。スタッフについても、プールのみ勤務の管理人のほか総合体育館管理人を期間中のみプール管理人との兼務とし、従事する人員を増加し施設運営にあたった。 その結果、開設期間中総利用者は3, 282人と(R5年度2, 763人)昨年比較し519名増加した。世代別では、一般の利用が昨年度952名と比較し、1, 292名と最も増加した(340名増加)。 スポーツ少年団などの定期的な利用のほか、個人での定期的な利用も増えていることが結果としても現れており、スポーツ促進が図られ一定の成果があったといえる。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	B	昨年に引き続き、スイミング教室など社会体育事業の場として有効利用されている。一般利用者についても定期的な利用も見受けられることからスポーツ振興や健康増進に寄与している。 開設時間を延長したことにより、総利用者数も増加したが、今年度のスタッフの人数ではシフト運営上余裕があるとはいえない。来年度以降も、通常営業もしくは今年度同様に運営するのであれば、スタッフの人員等十分に検討が必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主 管 係	社会教育係	記入者	佐 藤 優 平
事務事業名	バーベキューハウス管理事業	中期計画上の位置づけ	スポーツ施設の整備充実
10款6項2目	体育施設費	事業費	R4実績
			15千円
			R5実績
			3千円
			R6実績
			3千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに務める。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①需用費 ・消耗品費 ②役務費 ・火災保険料		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段?)	A	現状維持が妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	町民の憩いの場、交流の場として有効活用されている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	現状維持のままだが望ましい。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主 管 係	社会教育係	記入者	佐 藤 優 平
事務事業名	総合グラウンド管理事業	中期計画上の位置づけ	スポーツ施設の整備充実
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 4 実績 2, 5 5 9 千円
			R 5 実績 2, 5 1 1 千円
			R 6 実績 3, 1 0 9 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①需用費 ・消耗品費 → グラウンドソイル（土）、塩化カルシウム、除草剤 ・燃 料 費 → 軽油、レギュラーガソリン ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修 繕 費 → 小破修繕 ②役務費 ・火災保険料 ・手 数 料 → 殺虫灯カバー取付け及び取外し ③委託料 芝刈・施設管理業務、芝生管理業務（殺虫剤・除草剤散布、追肥、エアレーション） ④使用料及び賃借料 グラウンド転圧作業用ローラー借上料、土地借上料 ⑤備品購入費 → 墨ベース（Bグラウンド1～3墨用）、刈り払い機 等		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段?)	A	事務局が施設内にあることから行政が実施し、現状維持が望ましい。
成 果 (意図した成果があがったか)	B	グラウンドフェンスの老朽化により自立しないフェンスが発生している。また、A グラウンドを中心に外野芝生の劣化が著しいため、根本的な改良が求められる。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	B	適切な改修工事を適時行い、持続可能な施設維持に努める。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
B	改善の上継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和6年度事務事業評価シート（社会教育）

主 管 係	社会教育係	記入者		佐 藤 優 平
事務事業名	太鼓山スキー場管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の整備充実
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 4 実績	1 , 6 5 3 千円
			R 5 実績	3 3 , 1 8 5 千円
			R 6 実績	1 , 9 2 0 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに務める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①需用費 ・消耗品費 → 管理用消耗品 ・燃 料 費 → 灯油・レギュラーガソリン ・光熱水費 → 電気料・水道料 ・修 繕 料 → 小破修繕 ②役務費 火災保険料、し尿汲み取り料 ③委託料 リフト保守点検、スキー場草刈、全体及び排水トラフ周辺草刈、管理運営業務 ④使用料及び賃借料 土地借上料			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	現状維持が望ましい。
成果 (意図した成果があがったか)	A	当初の予定通りの期間で運営することが出来た。開設期間37日間（1月21日～2月28日）の利用者数は延べ788人であった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	開設に必要な天候的条件がそろっていたため、当初予定期間どおり開設することが出来た。次年度以降も、望ましい運行日程を検討し、施設の維持管理に努める。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

（1）特色ある教育の推進

主管係	総合給食センター係	記入者	山 田 蒼 良
事務事業名	厚沢部町総合給食センター運営事業	中期計画上の位置づけ	学校保健での健康保持増進
10款6項3目	学校給食費	事業費	R4実績 79,215千円
			R5実績 79,510千円
			R6実績 80,657千円
事業の目的 （求める成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な学校給食の提供 ・食育指導・給食指導の充実を図る 		
事業対象と手段 （誰に何を）	①平成29年8月から町単独の総合給食センターで調理した給食を各学校とこども園へ提供 ②完全給食（米飯給食）の実施 ③栄養教諭（厚沢部小学校所属）を活用し、各小中学校で食育指導・給食指導を実施 ④アレルギーを持つ児童生徒には7大アレルゲンを除去した代替食を提供		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	学校給食の安心・安全、また子育て支援の観点からも継続した実施が必要である。
成果 （意図した成果があがったか）	A	米飯給食をはじめ、児童生徒に温かい給食を提供することが可能となった。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	センターの管理・運営・調理業務は業者委託しており、業務の効率化が図られている。
総合評価	A	道が配置する栄養教諭の管理・指導のもと運営がなされており、給食費徴収・食材購入等も公会計で処理することで透明性が保たれている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(2) その他(就学支援)

主管係	総合給食センター係	記入者		山 田 蒼 良
事務事業名	子育て支援事業（給食費助成）	中期計画上の位置づけ		教育費等の支援
1 0 款 6 項 3 目	学校給食費	事業費	R 4 実績	—
			R 5 実績	—
			R 6 実績	—
事業の目的 （求める成果）	・ 町民の子育てに係る経費を助成することで、保護者の経済的負担の軽減を図る			
事業対象と手段 （誰に何を）	・ 令和元年度まで給食費の2分の1を助成 ・ 令和2年度から新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を活用し無償化を実施 ・ 令和6年度から子育て支援の充実のため、完全無償化とする。 ※ 参考 小学生：月額 4,300円 中学生：月額 5,200円			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	子育て支援の一環として、平成20年度から町の単独事業として実施しているため、継続実施が必要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を活用し、全額無償化することにより、保護者の経済的負担を軽減することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	本事業は、町の政策事業として実施しているため、助成額の削減はしない。
総合評価	A	子育て支援の一環として行っている事業であり、保護者の経済的負担の軽減になっていることから、今後も継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）